

モザンビーク

2020年11月12日

海外調査部・マプト事務所

■サイクロンの影響で経済成長は鈍化

2019年3月と4月に、モザンビーク中部と北部に上陸した2つのサイクロンの影響で経済成長は鈍化し、2019年の実質GDP成長率は2.3%と前年の3.4%を下回った。特に3月に中部ソファラ州一帯に上陸したサイクロン「アイダイ」による被害が大きく、国内第2の都市ベイヤでは、暴風と冠水によって多くの建物が破壊されるなど大きな被害が生じた。内陸部でも豪雨による河川の氾濫などでインフラや農地に被害が及び、世界銀行によると同国で2019年に見込まれた農作物生産高の15%が失われた。また、2019年には1億6,200万ドルがインフラ復興などに充てられ、いまだ被災地は復興途上にある。農業セクターへの打撃は農作物の価格上昇をもたらし、インフレの進行が懸念されたものの、消費者物価上昇率は前年と同水準の3.5%となった。政府は2020年の実質GDP成長率を、復興の進展に伴う前年からの反動で当初4.8%と予測していたが、新型コロナウイルス感染症による影響を受け下方修正し、2020年6月時点で2.2%と予測している。

政治面では、2019年10月に5年ぶりとなる大統領、国会議員、州議会議員選挙が実施され現職のフィリップ・ジャシント・ニュシ大統領が73%の得票率で再選し、2期目に入った。ニュシ大統領率いる与党モザンビーク解放戦線 (FRELIMO) は国会議員、州議会議員選挙でも大勝という結果になった。ニュシ大統領の下、政府は非開示債務問題の解決に向け取り組んでおり、2019年9月から10月にかけて、非開示債務のうち約7億2,700万ドル分を額面総額9億ドルの新債に切り替える再編提案について債権者と合意するなどの進展がみられた。これを受けて、米大手格付け会社のスタンダード・アンド・プアーズは外貨建て長期債務格付けをデフォルトカテゴリーから除外し、フィッチ・レーティングやムーディーズも同様に格付けを引き上げた。またIMFも政府の取り組みを評価しており、2020年3月に拡大信用供与 (ECF) による融資の交渉再開を予定していたものの、新型コロナの影響で延期となった。選挙での大勝により政権基盤は安定しているため、2020年以降のさらなる交渉進展に期待が高まる。

■天然ガス開発に伴い輸入が増加、貿易赤字は拡大

2019年の貿易 (通関ベース) は、輸出が前年比9.2%減の47億1,800万ドル、輸入は10.2%増の67億9,900万ドルだった。貿易収支は20億8,100万ドルの赤字となり、前年の9億7,200万ドルから赤字幅が拡大した。

輸出を品目別にみると、輸出総額の49.9%を占める石炭とアルミニウム製品がそれぞれ前年比28.3%減、21.3%減だった。ブラジル資源大手ヴァーレと三井物産が開発を進めるモアティゼ炭鉱は、年初の大雨の影響を受け、年間生産目標を1,400万トンから1,000万トンに下方修正したものの、最終的な生産量は877万トン (原料炭403万トン、一般炭474万トン) と目標を下回った。加えて、原料炭、

表1 モザンビークの主要品目別輸出入(通関ベース)

(単位: 100万ドル、%)

	輸出(FOB)				輸入(FOB)				
	2018年		2019年		2018年		2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
石炭	1,753	1,257	26.7	△28.3	一般機械	1,084	1,366	20.1	26.0
アルミニウム製品	1,392	1,096	23.2	△21.3	トラクター、トレーラー	35	56	0.8	61.5
電力	386	435	9.2	12.9	燃料(原油等)	933	871	12.8	△6.7
農作物	302	431	9.1	42.7	アルミニウム原料	575	693	10.2	20.6
たばこ	220	230	4.9	4.8	建築資材(セメントを除く)	395	578	8.5	46.4
重砂	264	322	6.8	21.9	自動車	350	378	5.6	8.3
天然ガス	312	274	5.8	△12.4	医薬品	217	229	3.4	5.7
合計(その他含む)	5,197	4,718	100.0	△9.2	コメ	206	219	3.2	6.0
					小麦	169	180	2.7	7.0
					食用油	112	175	2.6	56.7
					工業用オイル、潤滑油	112	175	2.6	56.7
					合計(その他含む)	6,169	6,799	100.0	10.2

[出所] モザンビーク中央銀行

一般炭ともに国際市場価格が下落したことが追い打ちとなった。国別では、首位の南アフリカ共和国が8億9,080万ドル(構成比18.9%)、次いでインドが8億360万ドル(17.0%)、中国が3億2,380万ドル(6.9%)だった。前年首位だったインドは主要品目の石炭の減少が響いた。

輸入を品目別にみると、北部天然ガス開発の進展に伴い、一般機械(構成比20.1%)が前年比26.0%増、建築資材(8.5%)が46.4%増だった。国別では、首位の南ア19億3,570万ドル(28.5%)、次いで中国7億8,320万ドル(11.5%)、アラブ首長国連邦5億5,180万ドル(8.1%)となった。近年、貿易相手として中国の存在感は高まっており、中国工商銀行(ICBC)とのパートナーシップを持つ南ア大手スタンダード・バンクは2019年12月、マプトに「アフリカ・中国エージェントデスク(ACAP)」を設立した。ACAPは中国のサプライヤーと輸入業者との取引をサポートするためのもので、アフリカでは4カ国目の設置となる。

■アラブ首長国連邦からの投資額が全体の約5割

2019年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比17.9%減の22億1,200万ドルとなった。三井物産が出資比率20%でコンソーシアムに参画する、北部カーボ・デルガド州沖合の天然ガス田(エリア1鉱区)の最終投資決定(FID)が2019年6月に発表された。FIDに伴い、コンソーシアム筆頭の米アナダルコの保有分(26.5%)が仏トタルに売却されることも発表された。売却プロセスは2019年に完了し、モザンビーク政府は8億8,000万ドルのキャピタルゲイン税収入を得た。国別ではアラブ首長国連邦が投資額全体の49.2%に当たる8億9,900万ドルを占める。これには同国に拠点を置くヴァーレによる石炭事業への投資も含まれており、ドバイ商工会議所マプト支部によると、ヴァーレを除く同国からの投資はエネルギー、物流、不動産に集中している。

■ナカラ回廊開発が対日輸出を後押し

2019年の日本のモザンビークへの輸出(通関ベース)は前年比49.3%増の1億8,415万ドルで、輸入は20.9%増の2億1,275万ドルとなった。輸出は、自動車を含む輸送用機器(構成比42.4%)が66.6%増、

表2 日本の対モザンビーク主要品目別輸出入〈通関ベース〉

(単位：1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2018年	2019年				2018年	2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
輸送用機器	46,835	78,017	42.4	66.6	石炭	127,407	170,068	79.9	33.5
自動車	44,193	52,460	28.5	18.7	原料品	26,927	35,644	16.8	32.4
自動車の部分品	2,580	25,449	13.8	886.4	木材	617	88	0.0	△85.7
鉱物性燃料	26,555	47,198	25.6	77.7	非鉄金属	11,952	5,953	2.8	△50.2
原料別製品	15,191	18,274	9.9	20.3	魚介類	4,983	4,467	2.1	△10.4
鉄鋼	12,346	11,266	6.1	△8.7	原料別製品	7,936	2,503	1.2	△68.5
ゴム製品	1,697	4,989	2.7	194.0	非鉄金属	1,094	0	0.0	全減
一般機械	10,992	8,436	4.6	△23.3	非金属鉱物製品	6,842	2,503	1.2	△63.4
原動機	5,302	6,569	3.6	23.9	合計 (その他含む)	175,995	212,749	100.0	20.9
合計 (その他含む)	123,345	184,147	100.0	49.3					

[出所] 財務省「貿易統計」(通関ベース)を基に作成

輸入は全体の8割を占める石炭が33.5%増だった。モアティゼ炭鉱で採掘された石炭はナカラ港から日本やインドなどに輸出される。また、ナカラ港から内陸国マラウイへと続くナカラ回廊はJICAによる回廊開発プロジェクトであり、ヴァーレや三井物産による総額45億ドルの投資によって開発・事業が進行している。ナカラ港での2019年の貨物取扱量は前年の190万トンから16%増の220万トンに達した。モザンビークから日本への石炭輸入が前年比33.5%増となった背景には回廊開発に伴う輸送量の底上げが影響しているとみられる。

主要経済指標

	2017年	2018年	2019年
①人口：2,932万人 (2019年)			
②面積：79万9,380km ² (2019年)			
③1人当たりGDP：492米ドル (2019年)			
④実質GDP成長率 (%)	3.7	3.4	2.3
⑤消費者物価上昇率 (%)	5.7	3.5	3.5
⑥失業率 (%)	3.31	3.24	3.24
⑦貿易収支 (100万米ドル)	△498	△972	△2,081
⑧経常収支 (100万米ドル)	△2,586	△4,499	△3,025
⑨外貨準備高 (グロス) (100万米ドル)	3,179	3,078	3,695
⑩対外債務残高 (グロス) (100万米ドル)	17,077	18,771	19,943
⑪為替レート (1米ドルにつき、メティカル、期中平均)	63.58	60.33	62.55

[注] ⑦：国際収支ベース (財のみ)
 [出所] ①②④⑤：モザンビーク統計庁、③⑥⑨⑪：世界銀行、⑦⑧：モザンビーク中央銀行、⑩：モザンビーク経済財務省

(お問い合わせ先)

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp